

## 全地連機関誌「地質と調査」に、当社社員が寄稿しました

一般社団法人全国地質調査業協会連合会（全地連）が発行する機関誌「地質と調査」にこのほど、弊社事業推進本部九州支社事業所長の大森将樹が寄稿しました。

寄稿したのは同誌の連載「各地の博物館巡り」で、飯塚市歴史資料館（福岡県）について取り上げています。飯塚市の地質・地形的な特徴、石炭産業都市としての発展などを踏まえながら、同市の立岩遺跡の出土品を中心とした数々の収蔵品、それらを用いた各種展示について、写真を織り交ぜながら紹介する内容です。

掲載されたのは「地質と調査」2023年度第2号（通巻162号）で、全地連「地質関連情報WEB」内、「[全地連資料館](#)」にて御覧いただけます。

以上

### 各地の博物館巡り

福岡県飯塚市  
飯塚市歴史資料館

外観

はじめに

飯塚市は福岡県のほぼ中央に位置し、かつて石炭産業が盛んであった地帯です。飯塚市の地形は、山地と平野が交互に広がる特徴を持っており、周辺の地層は、主に石炭層を挟む第三紀の堆積層からなります。飯塚市を含む高島地方の地質構造は、中地帯の構造で、福岡県北部の古第三系の一帯を向はほぼ南北-北西-北東方向で、傾斜は東または南に10~20°と緩いですが、北西にはほぼ平行な断層が繰り返し出現します。飯塚付近では、高島構造が知られます。このような地質及び地形的特徴を持つ高島地帯は、石炭の採掘によって周辺地帯を含めた経済に大きな影響を与えました。その中で、飯塚市は古くから大衆との交流が盛んで、近世には芸術家等の移住として来入。近代以降は石炭産業の中心として発展した歴史的背景から、市内には様々な時代の貴重な文化財が数多く残っています。

当館は資料館を通じて、飯塚市の歴史や石炭産業と地質学の両面に興味を持って頂ければ幸いです。

展示内容

(1) 初級展示室

飯塚市の文芸復興期にある幕末時代の遺跡群は、発掘して立岩遺跡と知られています。収蔵展示室は、立岩遺跡出土品が多数展示されており、当時の人々の暮らしの様子、地帯地帯との交通の軌跡及び風景を感じることができます。

立岩遺跡は、昭和8（1933）年に古香グランド建設工事中に見出され（古香遺跡発掘）、九州大学の中山平次郎博士によって初めて学術的に報告されました。昭和38（1963）年から昭和40（1965）年にかけて、立岩遺跡の調査が行われ、前遺跡（前遺跡時代の中国で製作された竈）10面をはじめとする多くの副葬品を有する墓（分の）が発見されました。それらは、幕末時代の日本の社会や文化を知る貴重な資料であり、昭和52（1977）年に国の重要文化財に指定されています。

写真1 立岩遺跡から発掘された竈（分の）複製

(2) 企画展示室

「歴史のはりまじり」をテーマとして土佐時代から近世までの考古資料を時代別に展示しています。飯塚市スグレ遺跡から出土した子持壺（写真3）は、大衆ユニークな形をしており、先人の陶芸技術の高さを窺うことができます。また、おとろ七世紀に黒毛寿神籠石（かけのうまごういし）に築かれた原土屋（写真4）は、朝鮮半島の山城に用いられている土を交互に積み固めた高度な工法で築かれています。

(3) 解説展示室

「くらしと文化」をテーマとして、飯塚地方の近世から近代までを中心とする①美術街道、②石炭の採掘に分けて紹介しています。








ご利用案内

●所在地・開館先  
〒826-0011 福岡県飯塚市飯塚 960番地1  
TEL: 0948-25-2200

●アクセス  
JR 飯塚駅南口から徒歩5分  
高島線飯塚駅西口から徒歩5分  
高島線飯塚駅西口から徒歩5分  
高島線飯塚駅西口から徒歩5分

●開館時間  
9:30~17:00（入館16:30まで）

●休館日  
毎月第1日（祝日除く）  
年末・年始（12月20日~翌年1月5日）  
その他随時休館日あり

●入館料  
一般客（団体）：230円（100円）  
中学生（団体）：110円（70円）  
小学生（団体）：60円（30円）  
※（ ）内は20歳以上の団体料金  
土曜日は高校生以下無料

●ホームページ  
<https://www.city.ibukuma.lg.jp/nakanishi/infos.htm>

<本資料に関するお問い合わせ先>  
株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング  
TEL: 03-5246-4150  
URL: <https://www.atk-eng.jp/>  
経営管理本部 高田

「地質と調査」2023年度第2号（通巻162号）59-60ページに掲載